

グローバル・コミュニケーション学群 2016年4月 開学

～新学群設置の目的について～

憲法、教育基本法、学校教育法、私立学校法に基づく私立大学の責務と役割とは？



安定

継続

公共

信頼

自主

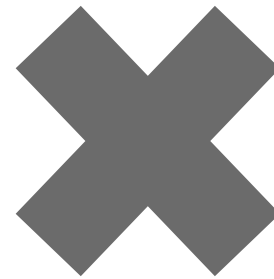
自律

責務と役割を果たす私立大学

安定	資産管理や財務状況等が健全で、安定した教育研究事業を行う大学
継続	長年にわたり教育研究事業を継続しており、培われた伝統や独特の文化、特色を有しながら、常に発展している大学
公共	国や地域社会、グローバル社会の要請に応え、法を遵守し、変化する社会に貢献できる教育研究を行っている大学
信頼	学生や保護者、卒業生や社会から信頼を得るための努力を怠らず、常に情報公開し、点検と評価を行い、改善を図る大学
自主	建学の精神に則り、私学としての教育思想や研究の特色を維持発展させるため、時代の変化に合わせて継続的に質を向上させる大学
自律	自ら課題や問題を発見し、原因を分析し、解決策を考案し、年度計画、中期計画、長期計画に基づき、組織的運営を円滑、効果的に行う大学

グローバル・コミュニケーション学群設置における、「公」と「私」のバランス

グローバル人材の
育成



キリスト教主義教
育に基づく国際的
人材の育成

公共性: 社会からの要請

自主性: 本学の教育理念

公共性：グローバル人材育成（内閣官房グローバル人材育成推進会議まとめ、H24.6.4）

- 語学力とコミュニケーション能力
- 主体性と積極性、チャレンジ精神、協調性と柔軟性、責任感と使命感
- 異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティ
- その他（教養と専門、問題発見と解決能力、チームワークとリーダーシップ、公共性と倫理観、メディアリテラシー）

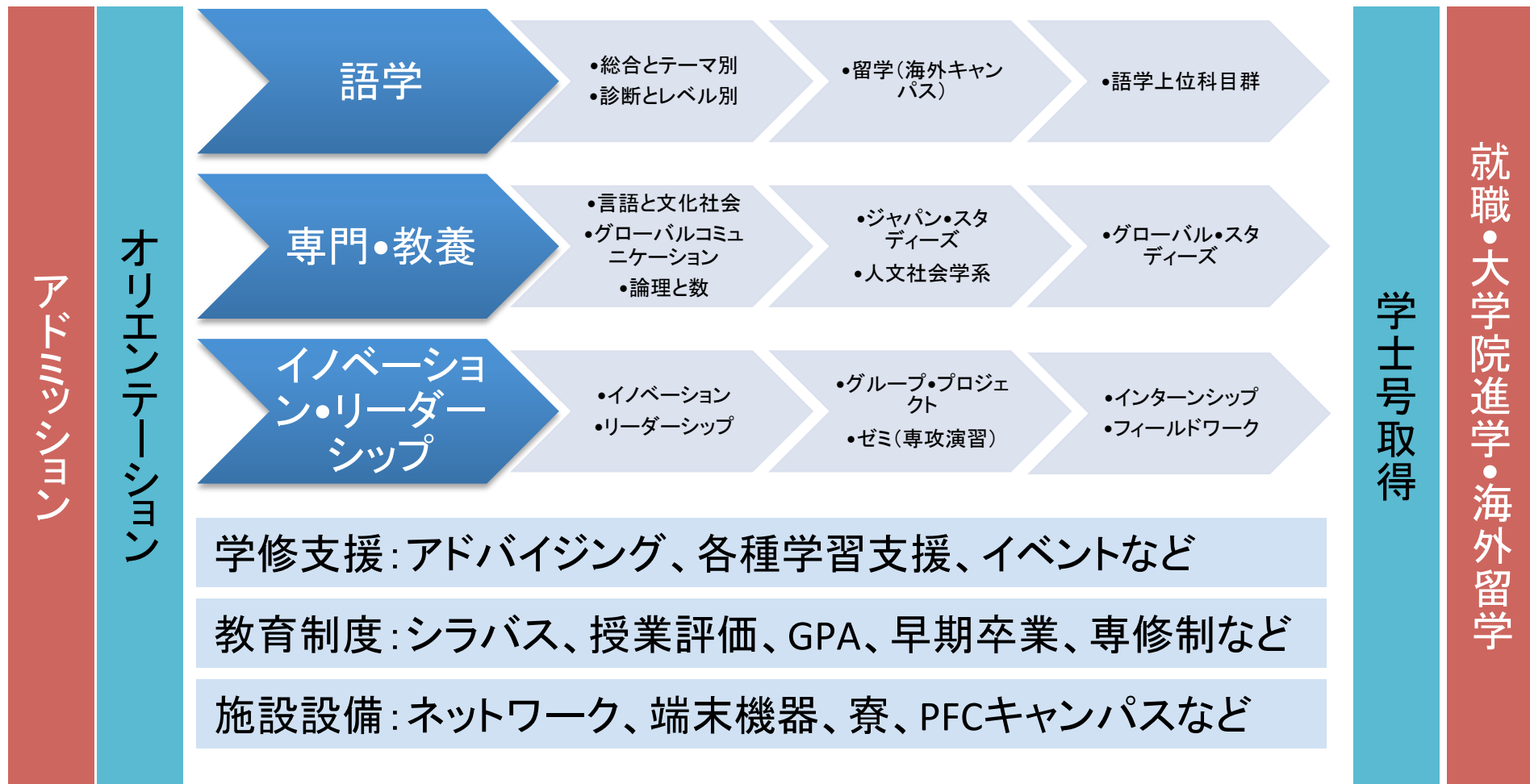
自主性：キリスト教精神に基づく国際的人材の育成（桜美林大学の教育理念）

- 学而事人（学んだことを社会に還元する）
- 隣人愛（自分を愛するがごとく他者を愛せよ）
- 語学とコミュニケーション、異文化理解、グローバル教育

グローバルコミュニケーション学群が育成する人材とは？

- 「**学而事人**」を理解し、実践できる人物
- 「**キリスト教精神**」を理解し、実践できる人物
- 「**外国語**」と「**コミュニケーション**」を高いレベルで修得している人物
- 「**異なる文化や社会**」に精通し、「**国際的な協働**」を可能とする人物
- 「**リーダーシップ**」と「**イノベーション**」の基礎基本を修め、実際の場面でその力を発揮できる人物

学士課程としての大まかな流れ

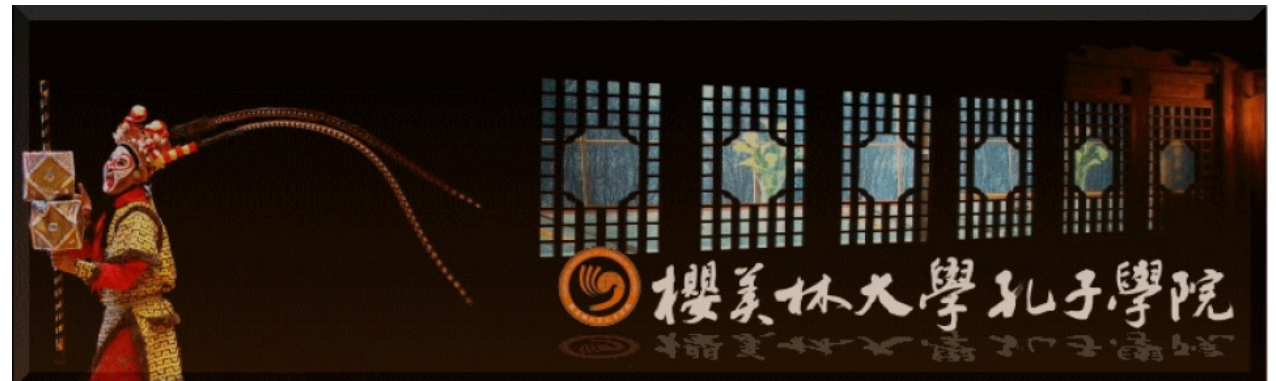


特色ある充実した外国語プログラム

- 診断テスト(CASEC)に基づく総合授業とテーマ別授業、及び、レベル別授業。少人数授業。
- 学群内に「孔子学院」(中国語)、「日本言語文化学院」(日本語)、「ELP」(英語)などの語学の専門集団を擁する教育
- 1～2年次に集中して展開する語学プログラム。短期間での成果重視



桜美林大学



世界から人が集まる学びの場

合宿型の留学、または正規留学、海外キャンパス

- カリキュラムの一部を、海外の提携校に委託。
- 英語系は、米国西海岸、オールドトラリアゴールドコーストの好立地（街、海、山に囲まれたキャンパス）。中国語系は上海。
- 大学の寮で現地の学生と共同生活
- 成績上位者は、特別プログラムで正規留学



桜美林大学



留学生とともに学ぶジャパンスタディーズ、グローバルスタディーズ

グローバル・コミュニケーション学群
の正規科目群(英・中・日で開講)

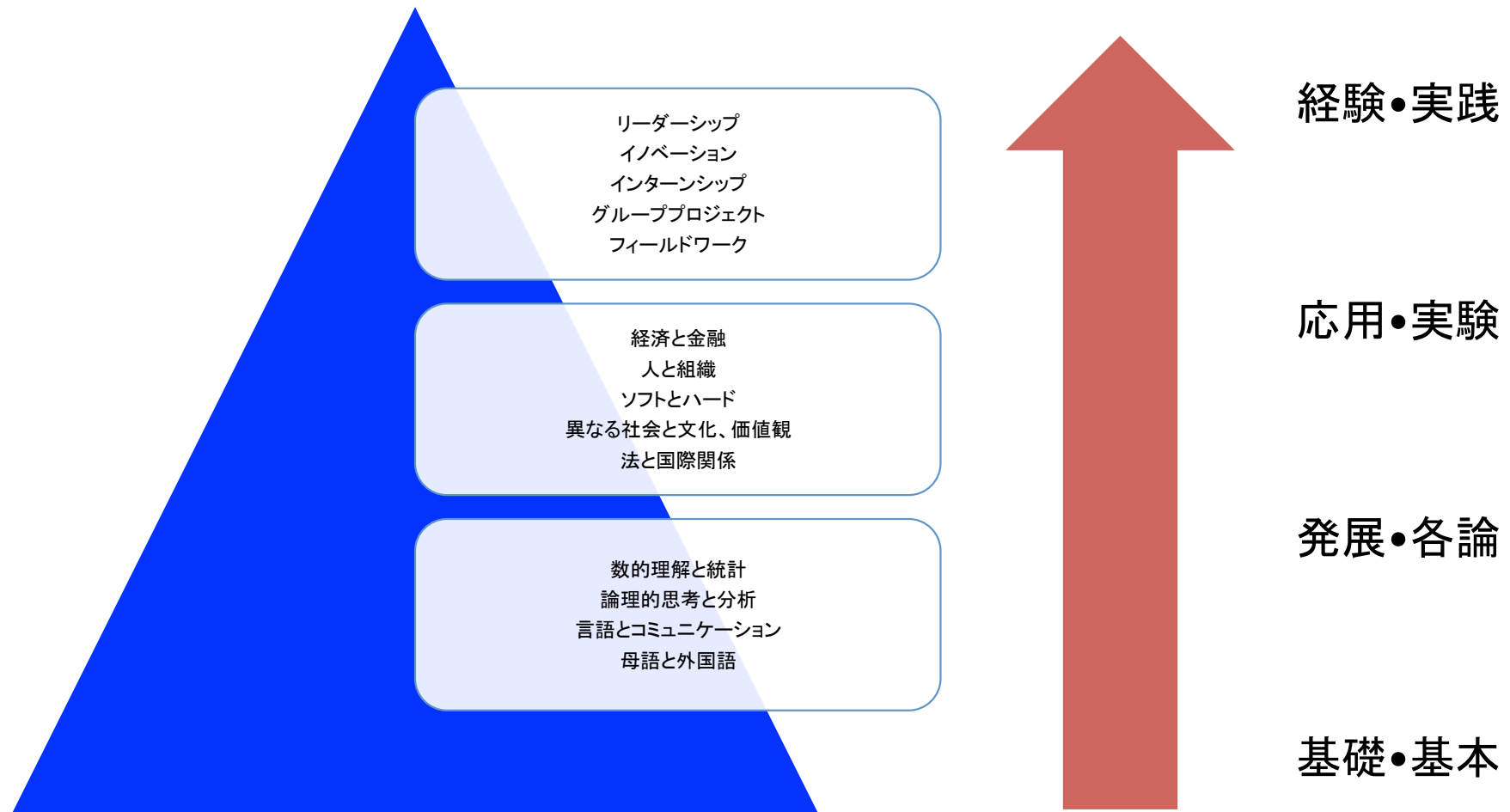
Comparative Culture
History of US – Japan Exchanges
Intercultural Communication
Japanese Art
Japanese Classical Dance
The Japanese Economy
Japanese Literature
Japanese Management
Japanese Politics
Modern Japanese History
Selected Topics in Japanese Studies
...

科目を利用して

短期留学生向
けプログラム
を構築

海外からの短期留学生とグロー
バル・コミュニケーション学群の
学生は、同じ科目群の授業で一
緒に学ぶ

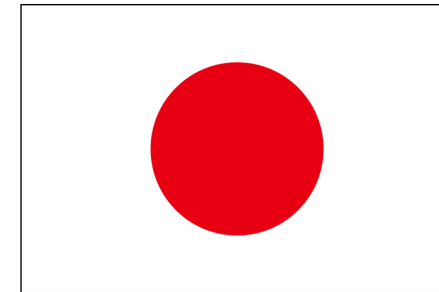
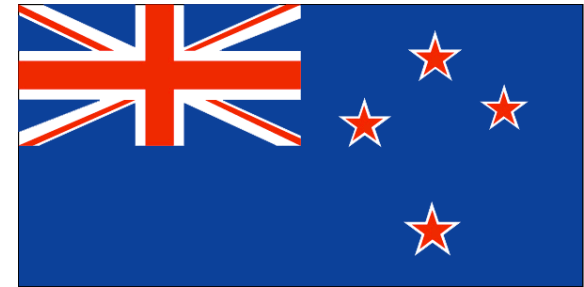
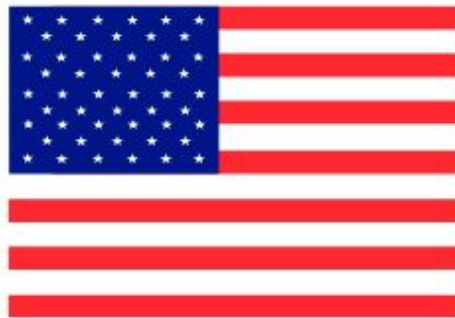
知識から実践につながるイノベーションとリーダーシップ



多国籍教授陣



毎日のキャンパスライフがグローバル。



教育方法の工夫

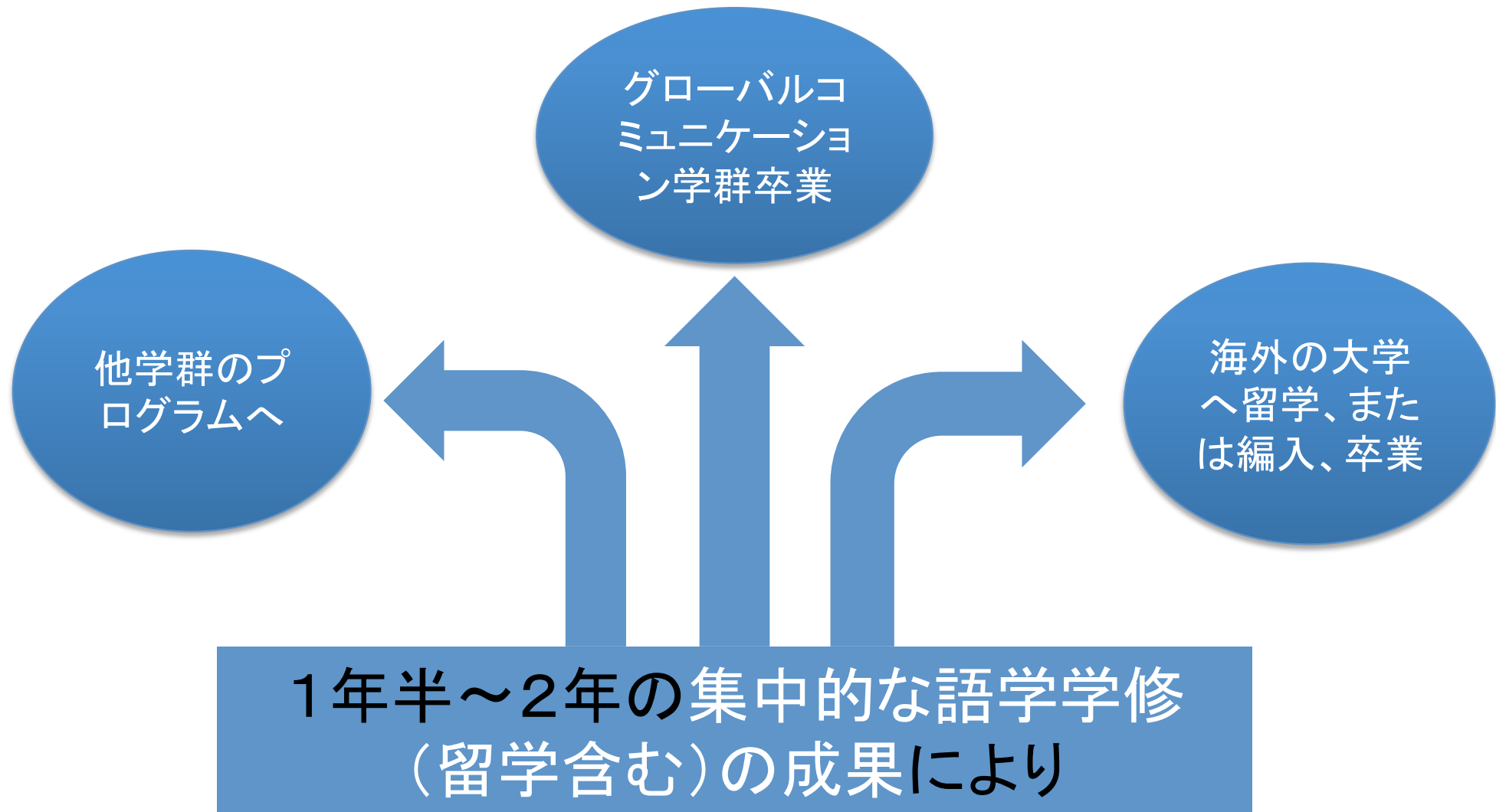
- 複数言語で準備されるシラバスと開講される授業
- 海外の大学のベンチマークを基準とした教育研究の質保証（授業内容、レベル、シラバス、評価等を英語で公開） → 学生のモビリティ促進
- GPAによる履修管理とアカデミック・アドバイジング、専修制
- 授業評価と授業改善の継続

学修支援

- 語学学修を想定した特色あるキャンパス（PFC）
- コンピュータ、ネットワーク環境と、端末機器、デジタル教材の充実
- 学修を補強するエクステンションプログラム（語学、教養など）
- 国際寮の整備（PFC周辺）
- 就職、進学支援のためのキャリア開発センター
- 学期ごとのオリエンテーション、日常のアドバイジング



4学期修了時点(2年次修了)からの可能性



学士に対するグローバル社会からの期待

経済同友会2014年調査	「コミュニケーション能力」「行動力・実行力」「意欲」 「問題解決力」「ストレス耐性」「論理的思考能力」 「サークル活動、ボランティア活動、留学などの経験」
2030年に向けた教育のあり方 に関する日本とOECD政策対話 (2015年)	「問題解決能力」「協働力」「異なる価値の融合」「説明力」 「広い視野と深い専門」「人間関係」「グローバルとローカルの関連付け」 「変化する社会への対応」「グローバル化への対応」
OECD/PISA(学習到達調査)	「グローバルコミュニケーション力」「文化横断的、相互的な物の考え方」 「多様性の尊重」「シチズンシップ(世界市民)」 「地球的課題とグローバル課題の相関」

注 PISA: Programme for International Student Assessment 世界各国の15歳の子供を対象にOECD(経済協力開発機構)が実施する試験。出題分野は、読解力、数学的思考力、科学的思考力。

学士に対するグローバル社会からの期待に応える 新しい学群



2016年4月、はじまる。

グローバル・コミュニケーション学群

入学定員250人



グローバル・コミュニケーション学群は、1)語学に長け、2)コミュニケーション能力が高く、3)分析や創造を伴う思考力と問題解決に向けた計画力や実行力を有する人材の養成等を目的とし、協働活動を通してグローバルリーダーシップの基礎基本を修養できる教育を行います。

